

# 岡山桃太郎空港機能強化基本計画について

「岡山桃太郎空港 空港づくり基本構想」（令和2年度策定）、「岡山桃太郎空港機能強化戦略検討業務」（令和6年度実施）を基に、将来のインバウンド需要を見据えた国際線同時2便対応や施設等の老朽化対策、利用者の利便性、快適性の向上等に取り組むために、岡山桃太郎空港機能強化基本計画を策定した。

## 1 旅客ターミナルビル整備計画

### (1) 計画条件の整理

#### ア 対象施設

##### 【旅客ターミナルビル】

- ・ 建築面積：7,998 m<sup>2</sup> ・ 延床面積：15,935 m<sup>2</sup> ・ 階数構成：地上3階
- ・ 構造：鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）

#### イ 将来需要予測

令和6年度に実施した岡山桃太郎空港機能強化戦略検討業務において、2050年度に国際旅客85万人、国内旅客120万人の年間旅客数を予測した。

#### ウ 必要規模の算定

将来需要予測に基づき、空港を利用する航空旅客数に対し、必要となる規模を算出した。

### (2) 旅客ターミナルビルの整備方針

「岡山桃太郎空港 空港づくり基本構想」の空港機能強化戦略でとりまとめた、①国際線施設の強化（同時2便対応）、②現状の課題解決と長寿命化による施設の強化、③旅客の利便性向上のための施設改善、④より快適な旅の始まり、円滑な移動を提供できる施設整備の4つの機能強化策を実現するため、以下の整備を行う。

| 4つの機能強化策 | 施設整備内容              |
|----------|---------------------|
| ①同時2便対応  | コンコース（旅客搭乗橋への通路）の増設 |
|          | 保安検査場、出入国審査場・検査場の拡張 |
|          | 搭乗待合室、手荷物受取所の拡張     |
| ②長寿命化等   | エスカレーター、エレベーターの新設   |
|          | 老朽化対策及び耐震性向上        |
| ③利便性の向上  | チェックイン・出発・到着ロビーの拡張  |
|          | 移動の円滑化のための動線の確保     |
| ④快適性の向上  | 保安検査場、搭乗待合室の拡張      |
|          | トイレの拡張とユニバーサルデザイン化  |

※保安検査場については、機器のスマートレーン化も併せて検討する。また、空港業務従事者の環境改善のため、休憩室等の整備を検討する。

(3) 旅客ターミナルビルの整備概要 (詳細は別紙参照)

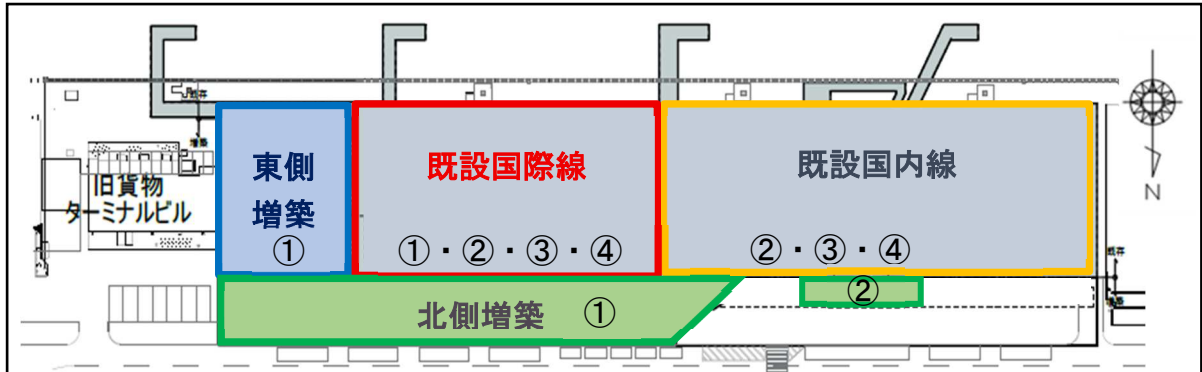


図1 旅客ターミナルビル 改修イメージ図

4つの機能強化策

- ① 国際線施設の強化 (同時2便対応)
- ② 現状の課題解決と長寿命化による施設の強化
- ③ 旅客の利便性向上のための施設改善
- ④ より快適な旅の始まり、円滑な移動を提供できる施設整備

(4) 外観・内観意匠計画

岡山桃太郎空港の将来像として定められている「地域を支え、国内そして世界とつながる私たちの国際空港」にふさわしい、新旧施設を一体化したデザインとし、円滑な移動を提供し、利用しやすい施設を目指し、新生旅客ターミナルビルを創出する。



図2 旅客ターミナルビル イメージ図 (外観)



図3 旅客ターミナルビル イメージ図 (内観)

## 2 駐車場・構内道路等整備計画

現状の課題と対応

- ・旅客ターミナルビルを北側へ増築するため、駐車場を縮減し、再配置を検討
- ・混在している公共交通と一般交通を完全分離し、安全性と利便性向上を検討
- ・構内道路の狭隘化している箇所を解消し、安全性を確保

## 3 概算事業費等

### (1) 整備概要

- ・旅客ターミナルビル増築面積：約 7,000 m<sup>2</sup>、既設改修面積：約 16,000 m<sup>2</sup>
- ・旧貨物ターミナル撤去、駐車場・構内道路等改修

### (2) 概算事業費：約 280～320 億円

「内 訳」【旅客ターミナルビル改修】約 247～280 億円

|                          |
|--------------------------|
| 国際線同時 2 便対応：約 168～192 億円 |
| 老朽化・耐震性向上：約 50～55 億円     |
| 利便性・快適性向上：約 29～33 億円     |

【駐車場・構内道路等改修】約 15～18 億円

【設計・施工監理等】約 18～22 億円

### (3) 財源案

- ・公共施設等適正管理推進事業債（充当率 90%、交付税措置有り）
- ・国土交通省補助金（採択された場合 補助率 1/2）
- ・公共施設長寿命化等推進基金 等

## 4 旅客ターミナルビル等の設計に向けて

本計画において検討した旅客ターミナルビルの改修規模は、国際線同時 2 便対応と国内線の利便性・快適性の向上を目的とした機能強化を行うための最小限の規模を示したものである。

空港を円滑に運営しながら実施する施設等の改修には課題が多く、事業費高騰の要因にもつながることから、本計画の規模等を基に基本設計・実施設計を進めることになるが、空港の特殊性を踏まえ以下の事項に留意する。

- ・旅客ターミナルビルのセキュリティラインを合理的に区分し、利用者等の安全を確保しながら使いやすい施設整備を進める。
- ・旅客ターミナルビルは、様々な関係者の施設や設備が存在し、財産や管理の区分が複数にまたがっているため、関係者と調整し整備を進める。
- ・概算事業費については、物価上昇や運営しながら実施する改修による、繰り返し生じる仮設工の費用を－5%～＋10%と見込んでいるが、今後の設計においてその精度を高める。

## 5 スケジュール案

| 年 度       | 旅客ターミナルビル | 駐車場・構内道路等 |
|-----------|-----------|-----------|
| 令和 8 年度   | 基本設計      | 仮設設計、地質調査 |
| 令和 9 年度以降 | 実施設計、工事   | 詳細設計、工事   |

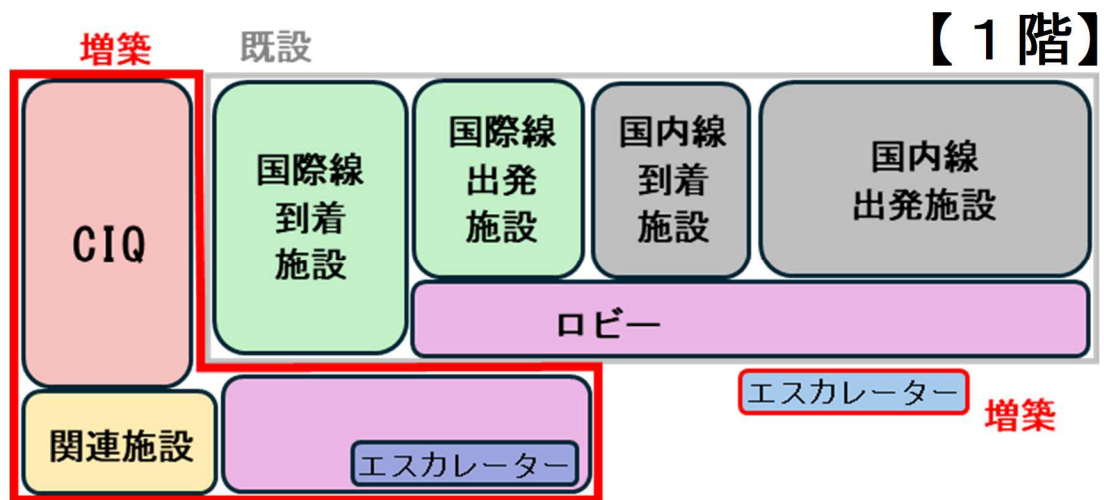
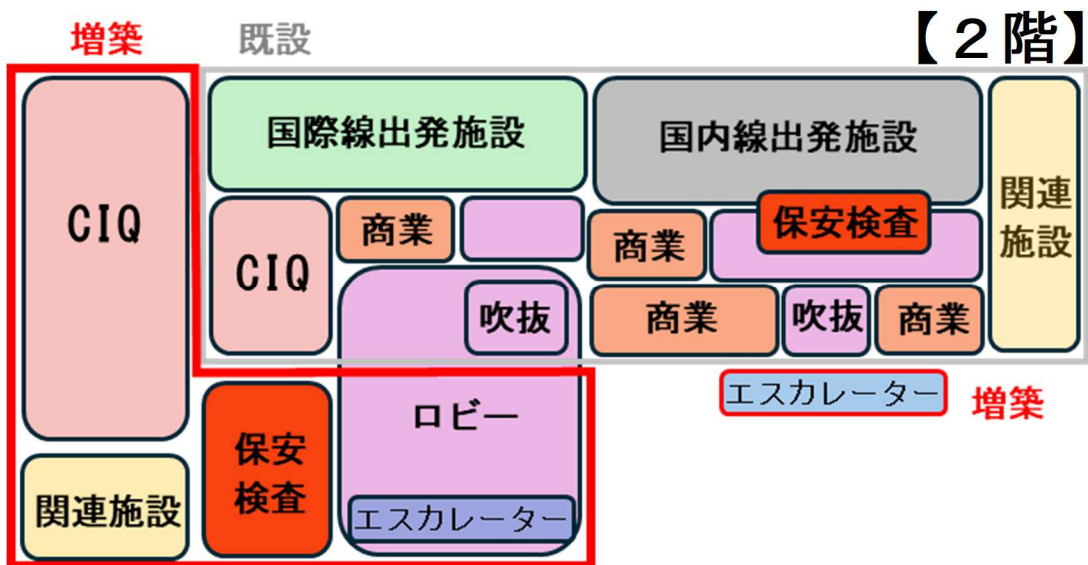
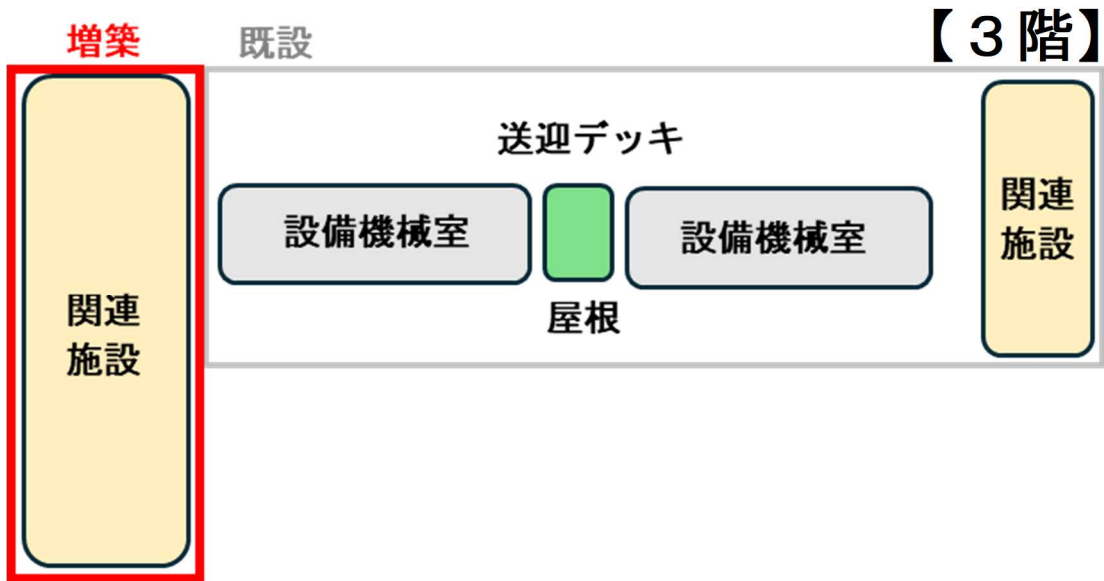


図4 旅客ターミナルビル 改修施設配置図

※ 国際線・国内線エリアに1基ずつエレベーターを新設する。